

●きゅうり

《アッププラン目標値》

◆収量アップを前提とした栽培管理と品質アップによる特集率の確保による単価確保

◎反収	10a当たり(露地栽培) 10t (雨よけ栽培) 15t
◎販売額	10a当たり(露地栽培) 280万円 (雨よけ栽培) 450万円
◎A品率のアップによる価格確保	現状の出荷者各自が前年度アップ

《重点取組事項》

◎反収増加	①優良品種の検討、適期防除、天候に左右されない圃場環境の整備 施設化の推進
◎品質向上	①A品率向上、適期作業、摘果の徹底、 露地栽培では、適期液肥灌水。傾斜地へのドリップ式(点滴) 灌水の推進。乾電池式灌水システムの推進。自動灌水システムの推進。
◎長期出荷	①施肥体系の構築(土壌分析活用による過剰施肥の削減) 適期追肥・灌水
◎格外抑制	①摘果の徹底、格外品の販路検討

【反収・A品率・販売額(10a当り)】

作型	項目	反収	販売額	A品率
露地	現状平均	6~7t	170~200万円	40~46%
	連絡協議会目標	10t	280万円	現状の出荷者各自が前年度アップ
	最高値実現農家	15t	420万円	52% 86.7%(摘果きゅうり・ミニきゅうりも出荷した場合)
ハウス(加温)	現状平均	12t	330万円	55% 70%(摘果きゅうり・ミニきゅうりも出荷した場合)
	連絡協議会目標	14t	390万円	現状の出荷者各自が前年度アップ
	最高値実現農家	20t	560万円	61% 93.5%(摘果きゅうり・ミニきゅうりも出荷した場合)
ハウス(無加温)	現状平均	8t	230万円	59%
	連絡協議会目標	10t	280万円	現状の出荷者各自が前年度アップ
	最高反収実現農家	14t	400万円	63%
ハウス(雨よけ)	現状平均	8~9t	200~270万円	40~47%
	連絡協議会目標	15t	450万円	現状の出荷者各自が前年度アップ
	最高値実現農家	23t	620万円	88.9%(摘果きゅうり・ミニきゅうりも出荷した場合)
ハウス(抑制)	現状平均	8t	280万円	57%
	連絡協議会目標	10t	350万円	現状の出荷者各自が前年度アップ
	最高値実現農家	14t	500万円	68% 83.5%(摘果きゅうり・ミニきゅうりも出荷した場合)

※作型は地区により、収穫期間に若干の差があります。

※摘果きゅうり・ミニきゅうりの取扱いについては、地区により異なります。

【家族労働による生産規模目標】

作型	家族で可能な 生産規模
露地	20a
ハウス(加温)	20a
ハウス(無加温)	20a
ハウス(雨よけ)	20a
ハウス(抑制)	15~20a
施設(加温+抑制)	35a
施設(無加温+抑制)	35a

【各地区の生産状況】

地区	部会員	主な作型
福島	126名	施設73名 (加温・無加温・抑制) 露地53名 (普通露地、露地夏秋)
伊達	586名	露地505名、雨よけ376名 抑制161名、加温7名
安達	226名	露地199名、雨よけ68名、抑制45名
そうま	28名	施設12名、露地6名

※作付人数は、作型によって重複する場合があります。